

情報共有 (行政)

2

本店レク議事メモ

日時：平成 23 年 4 月 16 日 (土) 11:15~11:50

場所：東京電力本館 1 階 101AB 会議室

先方：記者約 35 名 (カメラ 5 台)

当方：原子力設備管理部

柏崎刈羽原子力発電所第一運転管理部

本店広報部

配布資料：

- ・東北地方太平洋沖地震による影響などについて (4 月 16 日 午前 9 時現在)
- ・排出基準を超える放射性物質濃度の排水の海洋放出に関する経済産業省原子力安全・保安院からの指示文書の受領について
- ・福島第一原子力発電所 1~3 号機プラント状況 他
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況 他

質疑：

Q. 2 号機の立坑の水位とタービンの水位が上昇している理由は。

A. 詳細は不明。継続的に監視してまいりたい。

Q. 可能性としてどのような理由が考えられるのか。地下水の流入なども考えられるのか。

A. 現在確認中だが、地下水の流入も想定の一つとしては考えられる。

Q. サブドレンの水位の増減データはあるのか。

A. 確認させていただく。

Q. 集中廃棄物処理施設への移送準備の詳細進捗状況は。

A. 移送できるまで 2~3 日かかると思われる。

Q. 現在どのような点検をしているのか。

A. 内部の点検、補修作業を実施している。

3

Q. 排水のラインは出来ているのか。また、通水試験は実施しているのか。

A. 排水のラインはできている。通水試験はまだだと思うが確認させていただく。

Q. 窒素注入にあたり、格納容器の圧力が若干低くなってきているように見えるが、何らかの異常が確認されているのか。

A. 特段異常の情報はない。

Q. 昨日の体調不良者の状況は。

A. 軽い熱中症と思われると聞いている。その後、休憩し、元気になったと聞いている。

Q. 使用済燃料を処理するためにキャスクは既に手配済みか。

A. キャスクは使用済燃料に応じた設計をするもので、使用済燃料の状況を確認した後に発注していくことになると思う。

Q. 海洋放出に関する指示文書の受領について、放射性物質の濃度による評価で議論をしているが、放出量で議論すべきではないのか。大まかな値でも放出量は想定していないのか。

A. 量でお示しすることは現時点では難しい。影響度を考えるという観点で濃度をお示ししている。

Q. 2号機の立坑水位の上昇が見られるが、どの程度余裕があるのか。

A. グレーチング部まで1mを切っている状況だが、1日数センチの上昇なので、単純評価で満水になるまで1ヶ月程度はかかると考えている。その前に排水処理の準備は整うと思う。

Q. アレバ社が汚水処理の支援をしているとの報道があるが事実関係は。

A. 様々なご意見で検討を進めている。アレバ社の他、国内の企業にも支援いただいているのは事実だが、詳細は決定していない。全体工程ともあわせてお知らせしてまいりたい。

Q. 汚水処理の設計を始めたという報告はないか。

A. 特段そのような報告はない。

- Q. ゼオライト入り土壌の効果を発揮する時期や分量は。
- A. 100キロ入りの土壌を3つ投入した。今後、7つ投入を予定している。効果については今後の状況を見てまいりたい。なお、当社研究施設によると、ゼオライト1kgでセシウムを約6g吸着するとのデータがある。
- Q. 海洋放出に関する指示文書では周辺海域の魚介類を採取して影響評価、公表することとあるが、どのような物を採取する予定か。
- A. 今後、国、行政に相談して検討してまいりたい。
- Q. モニタリング場所についてはどのように考えているのか。
- A. 現在、沖合15キロの地点で採取しているが、南北に広げたいと考えている。
- Q. 指示文書を踏まえ、サンプリングポイント数はいくつにする予定か。
- A. 現状で10ポイントサンプリングしているが、南北に4ポイント、さらに沖合に2ポイント追加したいと考えている。
- Q. 汚染水を溜めておく仮設タンクは貯めるだけか、もしくは循環させたりもするのか。
- A. どのようにしていくかは検討課題の一つと考えている。少なくとも、貯めた後は、何らかの処理は将来的に必要なになる。
- Q. 2号機タービン建屋からの排水ラインが設置されているとのことだが、同ラインは3号機も貫通しているので3号機からも排水できる状況になっているということか。
- A. ラインとしては1～4号機を通っているが、号機ごとに単独で引き回しを行うものであり、現在、2号機の分を実施しているところ。
- Q. (17個の) 仮設タンクは設置に2週間かかったということだが、1つのタンクを設置して2つめを設置しているのか。もしくは全タンクを並行して設置しているイメージか。詳細工程を教えてください。
- A. 確認させていただく。
- Q. 4/12 に公表したインベントリにおけるその他核燃料生成物の詳細内訳について教えてください。
- A. 確認させていただく。

- Q. 地震発生の直前直後のパラメータは教えていただけないのか。
- A. 線量も高く中央制御室から当該データの採録が出来ていない。ログとして残っていると思うが、お示しできるようになるのは、先の話になると考えている。なお、地震発生時、制御棒の全挿入や水位の低下がないことは確認している。
- Q. 3号機圧力容器シール部付近の温度の変化の状況は。
- A. 本日6時時点で268度、昨日12時時点で263度なので、微増している。
- Q. フランジ部下部の温度は170度程度だったが変化はあるのか。
- A. ほとんど変化はない。
- Q. 今まで出しているデータについて論理的にとりまとめて説明していく必要があるのではないか。
- A. まずは現場の復旧に全力を尽くすとともに、その状況について広報から会見等でお知らせさせていただいている。
- Q. 1、2号機サブドレン内の汚染濃度が上昇しているとのことだったが、その後の状況は。
- A. 週1回から週3回に頻度を上げてサンプリング分析を実施している。追加分の結果はまだ出ていない。次の結果がいつ頃お知らせできるかは確認させていただく。
- Q. 監視強化などはしないのか。
- A. まずはサンプリングの頻度を上げて状況を注視してまいりたい。

以上

小情報共有 8枚

会見 議事メモ

日時：平成23年4月16日(土) 18:30~20:10

場所：東京電力本館3階 大会議室

先方：記者約60名(カメラ9台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

柏崎刈羽原子力発電所第一運転管理部

本店広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて【4月16日 午後4時現在】
- ・ 福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について(第二十四報)
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について(第二十二報)
- ・ 福島第一原子力発電所2号機取水口付近からの放射性物質を含む液体の海への流出について(続報12)
- ・ 福島第一原子力発電所 1~3号機プラント状況 他
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況 他
- ・ 【参考資料】モニタリング採取ポイント
- ・ T-hawk 写真、動画の提供

質疑：

- Q. 海洋モニタリングポイントを増やすとのことだが、いつから16地点となるのか。
- A. 具体的な採取開始については、NISAと調整して決めたいが、来週中には開始できると思う。
- Q. 魚介類の採取をして放射線の測定を実施するとあるが、どうか。
- A. 魚や海藻、貝類を捕って分析を行うが、具体的な時期は調整中。
- Q. 集中廃棄物処理施設の点検進捗状況はどうか。
- A. 一両日中にも完了すると認識しているが、移送前にはNISAの確認が必

要であると考えている。

Q. トレンチの水位の変化はどうか。

A. 現状今朝のデータしか手元に届いていない。

Q. 2号機付近のデータが上昇しているのは、シルトスクリーンや鉄板を入れた影響と説明したが、詳しく教えてほしい。

A. 潮の満ち引きによる攪拌による影響がなくなり、シルトスクリーンの内側で滞留していた濃い部分と薄い部分が混ざったのではないかと。

Q. 海水モニタリングは、シルトスクリーンと鉄板の内側で実施するのか。また、シルトスクリーン設置の時期はいつか。

A. 鉄板の外側、シルトスクリーンの内側でモニタリングを実施している。鉄板の設置は昨日までに7枚すべて設置しており、当該部のシルトスクリーンの設置時期については4月14日である。

Q. 拡散防止の効果の状況はどうか。

A. 設置して数日のため、経時変化を観察していきたいと考えている。

Q. 4月17日以降、ゼオライト入りの土壌を具体的にどこに投入するのか。

A. 明日以降、1号機から3号機のスクリーンの前に入れる予定。

Q. 2号機取水口の前で濃度が上がっているのは、シルトスクリーンや鉄板をおいたことで、外部に流出しなかった効果とみていいか。一方で、2号機のトレンチ水位上昇に影響が出ていないか。

A. 好意的に見れば、シルトフェンスを設置し拡散を抑えられたことで濃度が上昇したと考えられるが、まだ1日目のデータのため何とも言えない。シルトフェンスは完全に水を遮断するものではないが、拡散を遅くすることが出来ると思う。トレンチの水位との関連は、2号機付近の岸壁等から染み出すような漏水は確認されておらず、止水工事はうまくいっていると思う。トレンチ水位上昇はタービン建屋からの流入や雨水が考えられるが、特定のルートをお示しできる状況にない。

Q. 止水工事の一定の効果があったと考えているか。

A. 現状で好意的に見れば、拡散防止対策は有効であったと思われる。

- Q. 冒頭の説明では、どの写真を見て、原形をとどめていると説明したのか。
- A. 3号機原子炉建屋の写真を見て、横方向に設置された配管と、それに接続する配管が写っており、形状を維持しているのではないかと考えた。

- Q. 形状を維持していることは、機能を維持していることにつながるか。
- A. 写真から形状を維持していると申し上げたまで、少なくとも現段階で機能を有しているとは考えていない。

- Q. 写真に見える配管は何か。
- A. 原子炉補機冷却系ではないかと推測している。

- Q. パースクリーン付近が10倍になっている部分だが、どこからか染み出していると考えるのが妥当ではないか。

- A. 現場からそのような目視点検結果の連絡は来っていない。
ピットから御流入を4月6日に止めた結果、徐々にグラフが下がった。今回は、14日にシルトフェンスを全面に入れ、15日にサンプリング、その後鉄板を設置したという流れである。いずれにしても、明日以降の状況を見る必要があると思う。

- Q. 染み出しを否定しないか。

- A. 当外部の亀裂があった部分には、ゴム製の板など出処置をしており、染み出し等はないのではないかと考えている。

- Q. サブドレンの濃度が上がっているが、どのような経緯で漏れだしているか整理していただきたい、また、トレンチの水位が上がってきているが、その対策をどのように進めているか。

- A. サブドレンは1, 2号機は濃度が高いものが検出されており、週3回のサンプリングを実施することとし、本日サンプル採取した。サブドレンはポンプで排水を実施していないため、水位が上がってきており、今後、仮設のタンクで受けることなどを考えている。

- Q. サブドレンの水位は、上下動する傾向があるようだが、基本的に上がり傾向と理解していいか。

- A. 通常、13.7~12.7mの間でポンプが自動起動・自動停止することで、サブドレンの水位をコントロールしているが、その状況と現状を比較すると約6m高い水位となっている。

Q. 水位が下がるようなことはないのか。

A. サブドレンポンプが動いていないことを考えると、継続的に上がってくると思われる。

Q. 下がる理由は地下に漏れ出ている可能性があるか。

A. 気象条件によるが、雨の少ない時期が続くとサブドレンの水位が下がることはある。その場合は、地下水として外に出て行くと解釈している。

Q. 仮設タンクに受けるとのことだが、具体的な配備スケジュール等は。

A. 具体的な事項に関してはまだ決まっていない。

Q. 1号機への窒素注入は継続するのか。2, 3号機の窒素注入の状況は。

A. 1号機には継続して注入を続けていく。現状、当初の注入予定量である6,000m³となりつつあるが、窒素雰囲気を維持したいと考えている。また、2, 3号機への窒素注入については検討しているところ。

Q. 原子炉建屋の外に熱交換機を設置するために、既にメーカーに発注したという報道があるが、どうか。

A. いろいろな方法を検討しているところ、外部に設置する熱交換機も選択肢の一つ。現時点で採用を決めたという事実はない。

→ 会見中、後から以下の情報を追加

- ・実際に採用するかは未定だが、先行手配をメーカーに依頼した
- ・詳細については検討中

Q. 飛散防止剤はまだ試験段階という理解でいいか。

A. 共用プールの周辺に散布し、現在効果を見ているところ。

Q. 効果はどのように、いつ頃出てくるのか。

A. 散布した直後に、風等で飛散しないことを確認しているが、その後の経時変化を見ているところ。現状、具体的な判断時期については未定。

Q. 3号機の温度上昇については、計器不具合の可能性もあると思うが、その後どのように見ているか見解をお聞かせ願いたい。

A. 本日12時10分で270℃を示している。大気圧がない状況下で、これだけの温度を示すことはないと考えており、計器の誤指示ではないかとしている。

が、引き続き経時変化をみていきたい。

Q. その他の箇所では異常な兆候はないのか。

A. 圧力容器底部の温度に大きな変化はみられない。

Q. 冷温停止の判断とは何を見てどのように判断するか。

A. 現時点で安定して注水できていること、それに伴う圧力容器の外側で計測している温度に変化がないこと、圧力にも大きい変化がないことから炉心に新たな大きな損傷は発生していないと考えている。

現在は、注水と蒸発による除熱を行っているが、今後、循環型の冷却が可能となり、循環した水温が 100°C を下回る状況を目指したい。

Q. パースクリーン付近の海水濃度について、今回止めたところ以外の部分から外側に汚染水が流れ出ているのが合理的だと思う。今後の展開をみたいと言ったが、こういう状況がある以上、トレンチ、縦坑、タービン建屋の水位や、平面積等から割り出す漏えい量等データをもとに説明するのが世界に対する義務ではないか。3号機の温度についても隠れているデータについて明らかにすべきである。

以上の点について、明日の朝までにデータを出してほしい、出せないのであればその理由をきちんと説明してほしい。政府に出している文書と同じ物を出しているのであれば、同じ物を出してほしい。

A. 検討させていただきたい。政府に対しては、その時点の状況のデータを紙で出している。データ加工等に時間を要するためご理解をいただきたい。

Q. 1号機ノズルのデータがなかなか下がらないが、

A. 1号機は原子炉内の圧力があるため、なかなか低下しないが、少しずつ冷却に向かっている。

Q. 汚染水の放射性物質を取り除いて濃度を下げる案は、どのような物を検討しているのか。どういった汚染水を最初に処理するのか。

A. 方法としては、主に以下の3つを考えている。

・ゼオライトを用いてセシウムを吸着させる方法、

・フィルターを用いて浄化

・凝集剤を用いて放射性物質を固化、沈殿させる

具体的にどれを採用するかは決まっていないが、まず高濃度の汚染水を浄化し、低濃度化することを考えている。現場にはいろいろな水があり、そ

れらに応じたシステムとしたいと考えている。

Q. 集中廃棄物処理施設の汚染水に対しては、どれを用いるか。時期はどうか。

A. ゼオライトによる吸着や、凝集剤による固化は候補として有力なのではないか。時期については何とも申し上げられない。

Q. 4月4日～10日まで放出された、ヨウ素、セシウム以外の核種について、何がどれぐらい出ているのか教えていただけないか。

A. 大変申し訳ないが、核種の分析を進めているところ。今しばらくお時間をいただければと思う。

Q. 3月よりPuの検出があるが、定期的な土壌サンプル採取は、敷地全体で3ヶ所では少なすぎないか。サンプル採取箇所を増やす考えはないか。また、Pu放出に関する状況を特定することはできないのか。

A. 当面3ヶ所で継続し、必要に応じて増やしてまいりたい。どの号機から出ているのかの特定は難しいのではないかと。今後、事故を検証し、炉心の損傷度等や事故の状況を検証する際に特定が出来るのではないかと。

Q. 午前中に、タービン建屋の水位の具体的な数字について発言があったが、4号機の水位を聞いたのは初めてである。いつから水位を取っていたのか。

A. 確認する。

Q. タービン建屋の水位を計測しているのであれば、水位の経緯を教えてください。また、仮設タンクの仮置きから移設するのに約1ヶ月かかるのはなぜか。ロボットの操縦できるオペレーターはなぜ来ないのか。

A. データについては確認しているところ。仮設タンクは、まず仮置きし、ホースの接続を行ったが、引き続き蓋の設置が必要である。ロボットの操作は現場の状況を見ながら操作が必要であると考えており、当社および当社協力企業の操縦とした。

Q. 仮設タンクはいつから使えるようになるのか。

A. 今後5、6号機側に移設する予定で、実際にタンクを実際に使えるようになるのは今月末から来月上旬となる見通し。

Q. それまでサブドレンの水は大丈夫なのか。

A. その見通しである。

Q. パースクリーン付近の濃度についてはどのように点検しているか。

A. 目視点検である。水中からの点検は出来ていない。

Q. 濃度が上がっていることは水中から漏えいしていると理解していいか。

A. 水中もしくは、もともと内部にあった放射性物質が拡散して濃くなったとも考えられるが、現時点では推定の段階。

Q. 流出経路について特定できないか。

A. 岸壁付近のパトロールを継続して実施しており、他のルートからの漏えいは確認されていない。タービン建屋や縦坑の水を早く移送すれば、他の流出経路に関する懸念が低くなることから、なるべく早く移送を開始したいと考えている。

Q. トレンチやタービン建屋の水位について見える化をしてほしい。

A. 検討をさせていただく。

Q. 出さないデメリットは何があるのか。

A. 迅速に口頭でご報告している。ご理解いただきたい。

Q. 紙面では出してはいけないと統合本部で定められているのか。

A. そういうことはない。

Q. 出すデータ、出さないデータは東京電力で決めていると言うことか。

A. 当社にて判断している。

Q. インベントリの内訳はまだわからないとのお話をされたが、核種ごとに計算し総量が決まるのではないか。

A. 燃料が破損した状況は原子燃料の組成は類似しているもので、どの号機から流出しているかどうか判別し難いと申し上げたもの。

Q. インベントリの核種の分析と、3月11日14時以降のプラントパラメーターを出していただきたい。

A. 現在データの整理をしており、準備ができ次第ご用意させていただきたい。お急ぎであれば、設置許可申請書にインベントリが掲載されていることから、当方にて取り寄せ、お示しさせていただきたいと思う。

会見終了時、出席者に対して以下の情報訂正を周知

・本日2号機SFプールへの注水

「11:39にポンプ停止、11:54ポンプ停止を確認」に訂正

以上